

生徒教職員の非常食備蓄

京 附 属 大 高 防 災 意 識 向 上 目 的 に



食品や日用品など11種類が入った災害備蓄品を受け取る生徒(左)＝京都市下京区、京都産業大学附属中・高校

災害や帰宅困難時に備えようと、京都産業大学附属中・高校(京都市下京区)は30日、全生徒と教職員計1546人分の非常食や日用品の備蓄を始めた。

災害時に、生徒らに保管する。校内の倉庫で、3年間配布するため、社団法人「日本非常食推進機構」(三重県四日市市)から箱詰めした備蓄品を

購入した。箱には、パンの缶詰や野菜、ジュース、ウエットティッシュ、携帯トイレなど11種類が入っている。1セットは1日分。

同高校のボランティア部の生徒3人が、防災意識の向上を目的に、主に知的障害者の生活介護を行っている「デイセンターふらっと」(上京区)で箱のこん包をし、30日に施設の利用者から手渡された。

部員の1年大角菜々子さん(16)「西京区」は「箱に非常食を入れる作業を通じて、これまで身の回りに防災用品がないことに気付いた。今後は家庭で非常事態に備えたい」と話した。(能美孝啓)